

原木供給体制の整備に向けて研修

1 はじめに

現在、東日本大震災で被災した合板施設の復旧を図るため、北上市に年間10万 m^3 の原木を消費する合板施設の整備が進められています。

このことから、管内の原木安定供給体制整備の一環として、去る10月3日、花巻地方林業振興協議会と北上地方農林業振興協議会の共催により、市町、森組、林業普及指導協力員、森林所有者など23名の参加の下に、秋田県で木材加工施設と地域材利用の状況を調査しました。

2 概要

製材工場「秋田製材協同組合・アスクウッド」は、秋田杉ブランドの高い知名度がゆえに、同県は大型製材工場の整備が遅れたという背景があり、10年を超える検討を経て、平成24年7月に操業開始した施設(原木消費量14万 m^3 /年)。製品は間柱が中心(約6割)。木材乾燥機が不足しているとのことで、増設を検討していました。(6基保有)

合板工場「秋田プライウッド」は、

3工場で年間約50万 m^3 (約9割が国産材)の原木を消費し、ロータリーレース(切削能力5cm)を8基保有しており、規模の大きさに驚くとともに、安定した原木供給体制の裏づけに感心させられました。なお、山林280haを取得し、植林や間伐など森林造成にも取り組んでいました。

また、移動途中にリニューアル工事で秋田杉をふんだんに使った「秋田空港ターミナルビル」と木造に建て替えた「秋田駅西口新バスターミナル」を視察し、同県の木材利用に対する姿勢を垣間見た思いでした。

管内の原木供給体制強化を図るため、今後も引き続き、ハードとソフト両面から関係者とともに取り組んでいきたいと考えています。

